

「希望を捨てるわけにはいかない」



「第3回九州・現代美術の動向展」パレード、福岡市内、1969年2月25日、撮影者不明

田部光子展

“I Can't Give Up Hope” The Art of Tabbe Mitsuko

2022年1月5日[水]—3月21日[月・祝]
福岡市美術館 2階 近現代美術室A・B

休館日 月曜日(ただし1月10日[月・祝]は開館し、翌11日[火]は休館) 開館時間 9:30-17:30(入館は17:00まで)
主催 福岡市美術館 助成 芸術文化振興基金、公益財団法人福岡文化財団



福岡市美術館
FUKUOKA ART MUSEUM

田部光子展

「希望を捨てるわけにはいかなない」

The Art of Tabe Mitsuko
 “I Can't Give Up Hope”

田部光子(1933年生まれ)は日本統治下の台湾に生まれ、1946年福岡に引き揚げ、絵画を独学し、「九州派」の主要メンバーとして活動、その後も福岡の美術界だけでなく女性たちをも牽引してきた美術家です。同時代の社会の動きに敏感に反応し制作した《プラカード》や非常に早い時期に発表されたフェミニズム・アートとして近年注目を集める《人工胎盤》をはじめ、実体験と日々の思考から生まれた作品は、今も観る者に強く訴えかけます。

本展覧会では、1974年に主宰した「九州女流画家展」などこれまでほとんど紹介されることのなかった1970-80年代を含む、「九州派」時代から現在までの田部光子の活動を、作品と資料によって明らかにしていきます。それは、ひとりの表現者が社会のさまざまな障壁に立ち向かい、不平等に抗い、人々の背中を押し、なにより楽しみながら美術によって世の中を変革しようと走りつづける軌跡でもあります。

「希望を捨てるわけにはいかなない」——座右の銘だというこの言葉は、田部の美術家としての姿勢を表しています。



《魚族の怒り》1959年、福岡市美術館蔵



《プラカード》1961年、東京都現代美術館蔵



《たった一つの実在を求めて》1963年、福岡市美術館蔵



《人工胎盤》1961年(2004年再制作)、熊本市現代美術館蔵

関連プログラム

記念講演会では、田部光子の活動とその背景をより深く理解するため、日本の近代および戦後美術史における女性の美術家たちを研究されてきた専門家にお話しいただきます。

会場 1階ミュージアムホール
 聴講無料/定員180名/先着順/13:30開場

記念講演会①

「ジェンダーの視点からみる近代の女性アーティストたち」

講師 吉良智子(日本女子大学学術研究員)
 日時 2月5日[土] 14:00-15:30

記念講演会②

「戦後美術と女性作家」

講師 中嶋泉(大阪大学大学院准教授)
 日時 2月12日[土] 14:00-15:30

つきなみ講座特別編

「美術家・田部光子の挑戦」

講師 正路佐知子(当館学芸員、本展企画担当)
 日時 2月26日[土] 14:00-15:30

新型コロナウイルス感染症の拡大状況によって、展覧会および関連プログラムに変更が生じる場合があります。来館前にホームページで最新情報をご確認ください。



《Hana》1990年、作家蔵



《Sign Language》1996/2010年、福岡市美術館蔵

観覧料

一般 200円(150円) | 高大生 150円(100円)

※()内は20名以上の団体料金。※次の方は無料で観覧いただけます。身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をご持参の方、およびその介護者1名/特定医療費(指定難病)受給者証、特定疾患医療受給者証、先天性血液凝固因子障害等医療受給者証、小児慢性特定疾病医療受給者証をご持参の方/福岡市、北九州市、熊本市、鹿児島市在住の65歳以上の方/wa+club(わたすクラブ)会員/中学生以下の方

交通案内 地下鉄:(空港線)大濠公園駅(福岡市美術館口)下車、徒歩10分(七隈線)六本松駅下車、徒歩10分。西鉄バス:[系統番号13・140]で「福岡市美術館東口」下車、徒歩3分[系統番号6・7・12・113・114・200~206・208]で「赤坂三丁目」下車、徒歩5分

福岡市美術館
 Fukuoka Art Museum

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6
 Tel. 092-714-6051 | Fax. 092-714-6071
 www.fukuoka-art-museum.jp

